

令和 6 年度 住之江区区政会議

第 2 回 育む部会 会議録

1 開催日時 令和 6 年 1 0 月 1 5 日（火） 1 9 時 0 0 分から 2 0 時 0 0 分まで

2 開催場所 住之江区役所 4 階 第 4 － 1 会議室

3 出席者

〔区政会議委員〕

村藤 綾 委員、岡田 弘子 委員、風口 和美 委員

杉村 和朗 委員、三木 康彰 委員

（出席 5 人／定数 8 人）

〔住之江区役所〕

吉田 政幸 副区長

藤原 学 子育て支援・教育担当課長

松本 勝也 保健福祉課長

福田 佳代子 保健担当課長

寺戸 正弘 子育て支援担当課長代理

稲村 英明 教育担当課長代理

大家 典子 保健福祉課長代理

本田 弘美 保健副主幹

4 発言内容

○藤原子育て支援・教育担当課長

それでは皆さん、こんばんは。時間前ですけども、皆さんおそろいですので、ただいまから区政会議の育む部会、第2回育む部会を開催させていただきたいと思います。

住之江区役所の保健福祉課、子育て支援教育担当課長の藤原です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、それでは、出席いただいている委員の方々の御紹介をまずさせていただきます。

まず村藤部会長様です。よろしくお願いします。

○村藤部会長

よろしくお願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうしましたら順番に、岡田委員でございます。

○岡田委員

岡田です。よろしくお願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続いて風口委員でございます。

○風口委員

お願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続きまして、杉村委員でございます。

○杉村委員

よろしくお願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

最後に三木委員でございます。

○三木委員

よろしくお願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

お願いします。

本日は、急遽欠席者が小川委員と勝原委員、喜多委員につきましては、本日急遽予定が入ったということで、欠席されております。

本会議につきましては、7時現在、全委員8名中5名の出席ということで、定足数であります委員定数の2分の1以上を満たしておりますことを、まずは御報告をさせていただきたいと思います。

住之江区役所の出席者につきましては、配席表にて御確認をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、また発言する際には、役職とお名前を伝えさせていただきますので、よろしくお願いします。

また、この会議につきましては、個人情報などの非公開情報はございませんので、公開とさせていただきます。また本日の傍聴者はおられません。

また、大阪市では省エネルギーの取組としまして、7月1日から10月31日まで、関西夏のエコスタイルを実施しています。軽装での会議出席となりますので、御了承ください。

本日の議論内容につきましては、来月28日木曜日に開催予定の区政会議全体会で部会長から御報告いただき、情報共有を図ってまいりたいと考えております。

また、議事録につきましても、後日公表となり、公表する際は、発言者と発言内容についても公開されますので、御承諾いただきますように、よろしくお願いいたします。

広報や記録のために写真を撮影いたしますので、併せて御了承くださいますよう、よろしくお願いします。

それでは、お配りさせていただいています資料の確認を、まずさせていただきたい
と思います。お手元の資料を御確認ください。

まずは、本日のこちら、次第が1点目でございます。

続きまして、育む部会の委員名簿です。裏面には区政会議の委員名簿、全体名簿が
載っています。

続きまして、配席図、ございますでしょうか。

続きまして、資料1の「令和6年度住之江区運営方針の進捗状況と今後の方向性
について」という資料、ございますでしょうか。

続きまして、「区政会議について」ということで、裏面が「地域活動協議会につ
いて」の資料、ございますでしょうか。

最後に、資料3ということで、「すみのえ未来塾」チラシです。こちらを御用意さ
せていただいております。

皆さん、資料おそろいでしょうか。

そうしましたら、本日の会議ですけれども、令和6年度の住之江区運営方針の進捗状
況を報告しまして、その取組が抱えている課題と、その改善策について、説明をいた
します。

その上で、各取組の課題解決に向けた改善策、及び今後の方向性について、御議論
いただきたいと思います。と考えております。

時間は、本日は8時までの1時間を予定しております。スムーズな議事進行に、御
協力をお願いいたします。

それでは、ここから議事を開始させていただきますので、村藤部会長にお任せいた
しまして、進めてまいりたいと思います。

村藤部会長、それではよろしくお願いいたします。

○村藤部会長

よろしくお願いいたします。

それでは、部会の議事を進めさせていただきます。

本日は、令和6年度住之江区運営方針の進捗状況と、今後の方向性について、議論をいただきます。

早速ではございますが、事務局より説明をお願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうしましたら、こちらの資料ですね。資料1「令和6年度住之江区の運営方針の進捗状況と今後の方向性について」ということで、まずは運営方針とは、住之江区が重点的に取り組む課題を挙げて、その課題を解決することを目的とした取組を掲げたものとなっております。

令和6年度は、子どもに関すること、地域と福祉に関すること、防災・防犯に関することの3つの経営課題を掲げております。

当部会につきましては、そのうちの、経営課題1「子どもたちが輝くまちづくり」について、御議論いただくこととなります。

資料には、この課題で目指す主なSDGsのゴールを掲載していますので、御参考に御覧ください。

それでは、具体的に説明に入らせていただきます。

1枚めくっていただきまして、令和6年度の住之江区運営方針の進捗状況と今後の方向性についての概要を、簡単にまとめさせていただいております。

これまでの取組の課題と方向性を踏まえた6年度の進捗状況を記載し、特に御意見をいただきたい箇所については、後ほどのページに赤枠で囲んでおります。

まずはこの経営課題、こちらの1ページ目ですかね。に基づき、説明をまずさせていただきますと思います。

それでは、経営課題1「子どもたちが輝くまちづくり」ということで、1-1「子どもたちが笑顔で育つ環境の実現」将来像につきましては、全ての子どもが誰一人とりこぼされることなく、必要な支援を受けられる状態ということで、将来像を掲げて

おります。

課題につきましては、こどもサポートネットの充実、子育て世代への切れ目のない見守り環境の整備ということで、課題を掲げております。この将来像に向けて、2つの取組を進めております。

続いて、具体的取組1-1-1「支援が必要な児童、生徒への取組」ということで、児童や保護者のニーズに合わせた必要なサポートを関係機関と連携し、実施。課題につきましては、支援に当たり、保護者の同意を得るのに時間を要するケースがある。

方向性としては、「児童や保護者ニーズの把握と、NPO法人等関係機関との連携強化を図る」という方向性を示しております。

具体的取組1-1-2「全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備」、子育て支援室・地域保健活動担当を中心に、妊娠期から就学まで切れ目のない支援、大阪市版ネウボラやこどもサポートネット等、状況に応じた支援の提案ということで、課題としては、「子育てに関する情報が入手しやすくなるよう、取組を進める必要がある」。方向性につきましては、「引き続き、子育ての情報や相談の機会を、ホームページやSNS、広報紙等を通じて効果的に発信する」ということです。

1-2、続きまして「『生き抜く力』の育成」。将来像としては、「子どもたちが『生き抜く力』を身につけ、自分らしい未来を切り拓けるよう、学ぶことができる状態」。課題としては、「学習意欲の向上に向け、学校や関係機関等とのさらなる連携」。

その将来像に向けて、2つの取組ということで、下記のとおり示しております。

具体的取組1-2-1「児童、生徒の学力向上に向けた取組」としまして、少人数体制での理解度等に合わせた学習支援、放課後の課外授業の実施。課題としては、「学習支援事業の参加者数の増加に向け、さらなる周知の必要がある」、方向性としては「学校及び事業者と連携し、効果的な周知機会を確保する」。

具体的取組1-2-2「チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的

を見つれたりする機会づくり」としましての取組、未来に向かって挑戦する力や、解決していく力を育む授業プログラム等の実施。課題としましては、「チャレンジ精神を育む講座の実施手法に工夫が必要である」。方向性としては、「学校の授業の一環として実施できるよう、関係先と調整を行う」というような、課題と方向性を示しております。

部会意見のうち、特に具体的取組の1－2－2、すみのえ未来塾事業につきまして、「参加を希望する方に申し込んでいただくという方法もいいが、せっかくこういう機会に、こういった体験をいただくため、動員のような手法をしかけてみてはどうか」という委員の方々の御意見がございました。そういった点について、御意見をいただきたいと思っております。

例えば具体的には、学校の授業等で、こういったプログラミングを授業の一環として体験いただけるような仕組みもあってもいいんじゃないかというようなことも、今のところ考えております。

以前いただいた、こちらのプログラミングの部分で、第1回の育む部会のときの御意見を、動画とかチラシ、動画とか体験できるような内容が分かりやすくするような部分を入れてみてはどうかという御意見をいただきまして、その御意見をいただいたところで、このQRコードから動画も作成して募集をかけたところ、もう2回実施しまして、参加者としては、前回は上回る、申込者としては前回は上回るような形で、ちょっと御意見を踏まえ実施させていただいた結果、ちょっと上向きの状況はありますけども、さらに参加者数増に向けて、先ほど申し上げたような御意見もいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

部会長、よろしくお願いいたします。

○村藤部会長

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明を受けて、各取組についての御意見、御質問や、よりよい

取組にするために必要なこと、また事務局から特に御意見をいただきたいと依頼があった内容について、御意見、御提案いただければと思います。なるべく多くの委員から御意見をいただきたいと思いますので、簡潔にお願いします。どの取組からでも結構です。よろしくお願いします。

○杉村委員

未来塾なんですけど、もう3回目、4回目終わってるじゃないですか。これはどうだったんですか。今2回までしかないんですけど。まだ分からないんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応3回目、4回目については、若干人数が少なくなってまして、後半に、うまくもう一度PRとかも含めて、学校関係機関等々連携して進めないかなということで、事業者と今協議をしているところです。なので、今のところはこの2回だけの開催ということになります。

○杉村委員

少なかったから開催さえできなかったっていうイメージですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○三木委員

これ、面白いなと思った人は、2回目3回目と、こう続けて出たりできるんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応できます。できます。

○三木委員

そしたら面白くなかったんですね。

○杉村委員

ルールが浸透してなかったかですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。一応来られる方は、やっぱり保護者と一緒に来られていて、保護者の方も結構興味のある方で、経験者の方が、比較的多かったかなというところは、若干感じると思います。

○杉村委員

30名定員に、5、6人やった。5分の1、6分の1ですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうです。

○杉村委員

難しいな。

○村藤部会長

これは、それぞれで内容は違うんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

同じような内容になります。

○三木委員

参加する人のレベルに合わせて個別にやるとか、そんなプログラム内容を変えていって、リピーターを増やしていくとかはどうでしょうか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。その内容も含めて、事業者と都度協議もしながら、プログラムの内容を改善とか、ブラッシュアップしていくのもありかなと思っています。ありがとうございます。

○村藤部会長

いいですか。今学校も、プリントを配付っていうシステムは変わってきて、うちの子の場合、かばんの中に眠っていて届かないんですけど、うちの家は。ただ、今のところ、最近メールで届くようになって、今回、高校進路説明会をするってこともあって、学校からホームページに載せてもらったり、学校から保護者にメール送ったんで

すよ。そしたら保護者が必ず見て、行こうかっていう感じで、それでちょっと伸びて
るというのもあるし、ただ学校も、やっぱり配付しても届かないこととか、作業効率
も考えたら、今こういうのはミマモルメが、大阪市の教育委員会がお金を出していた
だけで、かなりどこの学校も実施されているので、それだったら本当にこれを載せ
て、PDFで開いてホームページとすれば、ちょっと保護者もこんなことしてるんだ
というのを広がる、情報が広がりやすいのかなと思います。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○杉村委員

ちょっと思ったんですけど、何が嫌で来ないのか分からないですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。ちょっと我々も思っているところは、やっぱりこの初心者も含めて興
味を持ってもらうように、できれば学校の授業の一環とかも含めて、クラス単位で御
希望が、小学校さんとかで、やっていくのもありかなというふうには思っています。

○杉村委員

出前授業みたいな。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。そうです。そういうことで、教員の負担軽減といいますか、働き方改
革の一環にもなるのかなと思ってますので、ちょっとそういった方法もありかなと思
いますが、いかがでしょうか。

○風口委員

いいんじゃないですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

いいですか。ありがとうございます。

○杉村委員

事業者と区役所の予算の範囲内で行ける範囲で。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○杉村委員

いろいろ言ってしまったほうが、多分いい。

○藤原子育て支援・教育担当課長

今年度もあるんですけども、来年度に向けて、こういった形でやっていけばいいかなという部分も含めて、御意見いただければと思っています。

○風口委員

これって年齢層はもうちょっと下げれないんですか。5年生からってなってるけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○風口委員

3年生だったら、ちょっと興味を持ち出すんちゃうかなと思うんですけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

3年生ぐらいからのほうが。

○風口委員

そう3年。

○村藤部会長

親もついてきます。

○風口委員

そうそうそうそうそう。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○杉村委員

親の言うこと聞いてくれます。中学生やったら親と一緒に来ない。

○風口委員

来ない。うん。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○杉村委員

6年生でも来ないと思いますけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○杉村委員

親の言うこと聞かないですね。多分さっきのメールのプリントを送っても、親が行きやって言っても、多分行かない。我が子の場合だけですけど。

○風口委員

いや、うちもそうです。

○村藤部会長

今日かな。何か「プログラミングって知ってるの」、中3の息子に聞いたら、「知ってるけど」という感じで。で、「学校で習うの」と聞いたら、「知ってるって言ってるやん」と言われて。だから授業の一環としては、何かそういうのは知ってるねんっていうのは分かったんで、あとはだからきっかけづくり、あと1人で行くの嫌だから、友達同士でちょっと行くとか。

○風口委員

プログラミングの本って図書室に置いてあるんですよ。学校の。漫画になってるんです。プログラミングのね。だからそれをやっぱり興味はある子は読んでたと思うんですよ。

○藤原子育て支援・教育担当課長

小学校ですか。

○風口委員

小学校の図書室に置いてます。だから私も、ちょっとボランティア入ったときに、ひまなときは見てるんですよ。

○藤原子育て支援・教育担当課長

なるほど。

○風口委員

だから興味ある子は絶対いてると思うから。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○杉村委員

めっちゃ具体的やし、分かりやすいし。シューティングゲームって、むっちゃ具体的に言うてくれてるし。

○村藤部会長

この「ゲームは持ち帰りできます」っていうのが、ほんとに。

○杉村委員

そうですね。めっちゃ具体的やし、分かりやすいし。何があかんのやろ。何が。

○風口委員

だから多分5年生からやからと思う。

○藤原子育て支援・教育担当課長

なるほど。

○風口委員

5年生からやったら、やっぱり親とついていかいうたら、ついていかへんと思うんですよ。

○杉村委員

確かにそうですね。もうちょっと下のほうがいいかもしれない。

○風口委員

だからやっぱり年齢は下げて、親御さんがついていける範囲の年代で、やっぱり体験させてあげたほうがいいんじゃないかなと。

○杉村委員

カリキュラム内容が理解できるかどうかっていうところも、中身は分かんないんでちょっとあれなんですけど。

去年のも今回のも面白いかったと思う。もったいないですね、せっかく面白いのに。

○村藤部会長

けど、学校でまず実施してみて、手応えして、何かこう、出前授業でやって、「あれ面白かったんだぞ」っていうのが口コミで、「俺らのところあるんだぞ」ってなれば。

○風口委員

だから自分でゲームを作れるよっていう感じで、もうちょっと宣伝したら。

○村藤部会長

多分技術部はやってるんですよ、中学校のね。

○岡田委員

小学校でのプログラミングの授業って、週にどれくらいあるんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

週に何時間とかもないと思うんですけども、やっぱり年間通しての時間というような形になるので、何時間というのはちょっと今すぐあれですけど。週何時間ではないということです。

○岡田委員

それは担任の先生が指導する。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応年間計画で、各学校で、学年は、大体何時間これを取るっていうのを、年間計

画で決めてあるので、そういった学校単位で決めている感じですね。

○三木委員

このプログラミングをすることで、将来に備えて、何かプラスになるんですか。これをやることによって。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応やっぱり子どもたちの論理的思考力とか探究心、こんな挑戦してみようというような形も含めて、そういった経験をするによって、何ていうんですかね、反骨心じゃないですけども、今って一回やって失敗したらなかなか難しい、ハードルをちょっとでも乗り越えていけるような形で、物事を考えていけるような、そういった子どもをちょっと増やしていけたらなというところは、ちょっと感じているところです。

なので、いろんな経験をするによって、論理的思考力含めて、伸ばせていけるかなというようなところで、思っています。

○三木委員

いや、それがプログラミングなんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

これだけじゃないんですけども、はい。そういった一助というような形で、ほかにもいろんなところは。

○三木委員

ほかになんかことがあるんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

例えば夢事業をやったりですね。

○杉村委員

去年やってたやつ。

○藤原子育て支援・教育担当課長

いろんな夢事業があります。ラグビーチームのレッドハリケーンズさんとか、SDGsにかかる環境に特化したものとか、あと、ほかで言えば、新北島中学校さんでも、木育、木材の環境の発表とかもされたりとか、そういったいろんな視野を広げる体験を、いろんなこう、学習というか、いろんな視野を、いろんな世界を見てもらうということで、ある意味今後の自分を何か決めていける道というか、ステップを、参考にもなればというところで、見識を深める意味でも、そういった部分は非常に大事なかなと思っています。なかなか授業だけでしたら、やっぱり決まったところになってしまうようになるし、それぞれ子どもたちが何に興味を示すかということも含めて、いろんな選択肢の分野があれば、なおいいかなというところは、思っているところです。

○三木委員

夢事業なんてすてきですね。何かこだわって。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうです。こだわってはないんですけど、ちょっとこういった具体的取組の中で、ちょっと挙げさせていただいてるところです。

○三木委員

何かやっぱり、技術を身につけるっていうのを、ちょっと。何か目的があって、プログラミングをするんだと思う。ゲームを作るという目的があって。子どもの人生の目的はゲームづくりかという、そうでもないの。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○三木委員

もっとこう、子どもたちの将来に役立つ、何かやる気のスイッチが入るようなものにされたほうが、いいような気もするんですけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

これプログラミングも、目的がゲームを作るのではなく、そこはツールの一つと

して使っているような形になりますので、最終的にはこうやって、こうやって、こう
いったらこうなるといふ、論理的な部分と、こういうところを使ったらこんななる
んかとか、そういうものをちょっと入れていくような形になっています。

○三木委員

将棋みたいなもんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。そうです。詰め将棋。

○三木委員

すごい、そうやったらいろいろあれなんだけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

段階的にこう積んでいって、考えていくっていう部分も非常に大事かなというふう
に。でやってみて、失敗してまた戻るとか、そういうところの繰り返しが、チャレン
ジ精神を含めて、育んでいけるかなというところは。

○三木委員

夢事業と、ほかにも何かされるんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ほかに。

○三木委員

人気があったのは、何が一番人気。

○藤原子育て支援・教育担当課長

区役所としてですか。

○三木委員

何か話聞いたら、夢事業とか、あとは人気が出そうだなと思ったんですけど、そん
なことはなかったですか。参加者の。

○藤原子育て支援・教育担当課長

参加者というか、学校の授業の一環で、そういった講師を呼んできたりというよう
な。で、ある一定中学校になってきたら、金融関係の勉強をしているところもあると
いうふうに聞いています。

○三木委員

これから区長にしてもらったら。

○風口委員

確かに。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そういったいろんな分野を経験するっていうところで、直接それが将来につながる
んかどうかというところはあるんですけども、視野を広げる一環というところで、
こういった職業もあるよ、ああいった職業もあるよというような形の視野も、主体性
を身につける部分でもあるのかなと。

ものづくり得意な子も、体を動かすというような、いろんな分野のところがあれば
なというところが。

○岡田委員

大谷選手が、マンダラチャートとかいうので、ああいう事を子どもたちできたらな
と。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。あれもすごいですよね。夢実現のための。

○杉村委員

根本的なこと聞いていいですか。

例えば基礎学力も、以前僕、区政会議で出させていただいた当時から多分出てた
と思う、やってたと思うんですよ。基礎学力アップとか、放課後事業って。で、夢事
業って、ほかのこういったいろんな機会に触れるっていうのは、すごいいい取組だと
思うんですけど、過去から見て、基礎学力とかがって上がってはきているんですか。

要は、すぐに学力って上がるものではないと思ってるんです。何でかって言うと、ちょっとずつの積み重ねで、勉強したいと思う意欲とかも含めて、上がっていくものやと思うので、急に上がるって、多分翌年に下がったり、その学年だけがよかっただけでっていう、上限はあると思うんですけど、基礎学力ってちょっとずつ上がっていくもんやと思うので、長い目で見たこういう取組の授業で、徐々に住之江区全体の基礎学力って上がってるもんなんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

基礎学力的には。

○杉村委員

点数、テストやってますよね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そのメンバー関連で、一概に。

○杉村委員

もちろん言えないと思うんですけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

言えないんですけども、上がってるところもあれば、下がってるところもあるっていうのが、実情です。

ただ、放課後チャレンジ事業。

○杉村委員

はいはい。ずっと昔からやってますよね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

はい。これについては、塾代助成、基礎学力アップというのは、習い事の塾代バウチャーを使っただけ、学校を使っただけの取組ということで、塾代の助成のバウチャーを使って、習い事に行くというような形が多いんですけども、一方、先ほど申し上げた放課後チャレンジ事業という、意欲的に行くのは、基礎学力アップのところで塾代助成

を使うっていう部分は、非常にそういう方はいらっしゃったら一番いいんですけど、放課後チャレンジ事業という部分については、なかなか居場所的な部分で、なかなか学習習慣が身につかないとか、学習意欲の向上とか、家庭でもいろんな家庭がありますので、そういった家庭のひとつの居場所として、この放課後チャレンジ事業は一定必要かなというところで、思ってます。

だからちょっと塾代バウチャーを使っただけの部分については、ある一定自分、自らが参加するというような、向上心を持った、ある意味、行く方もいらっしゃるんですけども、一方でなかなかそこまで自発的に行かない、あるいは塾代バウチャーの申込みすら家庭の事情でできないとか、いろんな家庭もありますので、そういったちょっと裏表の関係で、子どもたちにとっていい環境を作ってあげられたらなというところですね。

○杉村委員

塾代助成も、これからあれ、金額拡大しますよね。

○村藤部会長

10月から。

○杉村委員

はい。1万円。全員もらえるようになるんでしょう。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○杉村委員

もう僕ら関係ないんですけど。

○風口委員

私ら関係ない。

○村藤部会長

うちは申し込みました。

○藤原子育て支援・教育担当課長

5、6年生を対象に、拡大されてます。

○杉村委員

ですよね。ここからなんで、ちゃんと学力をチェックしていってもらいはったら。

○藤原子育て支援・教育担当課長

あと、学力向上の。

○杉村委員

ねえ。1万円のほんまに意味があるんかどうかのチェックにもなるんで。

○藤原子育て支援・教育担当課長

大阪市全体で・・・ですね。

○杉村委員

そうですね。まあまあ多分そういう成果をちゃんとチェックしていかなと、ただ配ってるだけになったら意味ないかなと思うんで。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。そこはまあ大阪市の動きも確認もしていきたいと思います。

○杉村委員

勉強だけじゃないんで、全然スポーツも行ってもらっていいんですけど。言い方が間違えてちょっと、勉強が別に至上主義じゃないので。すいません。言い方間違えてたらごめんなさい。

○藤原子育て支援・教育担当課長

いろんな経験ができる環境があれば、一番いいかなと思います。

○三木委員

賢い子とか、興味がある子とかはいいけど、やっぱりどんくさい子とか、テストの苦手な子、勉強が苦手な子は来ないと思うんですよね、こういうのね。だからどんな子たちでも来て、一緒に楽しめるというか、勉強できるっていう、夢事業なんかすご

いすてきやなと思って。プロ野球の選手とか、ラグビーの選手とか、住之江区出身の人が来られると思うんで、そういう人に来ていただいて、お話ししていただくとか。夢が、こうすてきな大人やな、先輩やなって思って、そういう人に住之江区褒めていただいて、住之江区で育ててもらったとか言ってもらって、地域の誇れるような人と、できたらお話ししていただいたら、すてきやなあと思うんですけどね。

賢い子育てるんやったらこんなんでもいいけど、ゲームプログラムできても、会社に入って、地獄のような仕事を押しつけられて、期日までにせなあかんとか、クライアントと話をして、もうめちゃくちゃ言われるとか、鬱病になって心療内科来る人も結構、プログラマーでいるんですよ。システム開発とか。それから、兵隊を育てるようなことを進めるよりも、社長さんを目指すような人を育てた、もっと夢のある人を育てたほうがいいように思いますけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

実際に、小学校のほうでも、プロのラグビーチームの選手が実際に来て、子どもたちを上にごって上げたりするとか、肉体を、腕とか、肉の厚さとかを、実際ぶつかったりして、こんなにすごいんやっていうのを感じる、感じたのが、すごい子どもたちもテンション上がってるような感じで。そういった、何かいろんなところで触れ合える場面がいっぱいあればなということでは、先生おっしゃっていただいてるように・・・。

○三木委員

加賀屋にお相撲さんとか来るらしいですね。

○杉村委員

キン肉マンの作者、安立ですけどね。安立来てくれるかどうか知らないですけど。

○吉田副区長

多分、平林。

○杉村委員

平林なんですか。

○吉田副区長

平林で、もともと描いていた。

○風口委員

そうなんですか。

○杉村委員

安立生まれの平林ですか。多分安立生まれ、一卷に安立病院で生まれたって、キン肉マンで言ってた。ないんでしょ、安立病院って。

○吉田副区長

そこに描いてたマンションっていうか、もう取り壊されたらしいんですけど、その前のマンホールが、キン肉マンがマンホールに。

○杉村委員

あります、あります。平林、ありますよね。

○吉田副区長

あの前にあったらしいんですよ。マンションじゃないですけど。そこで描いてた。

○風口委員

知らん。全然知らん。

○杉村委員

そうそう、安立です。安立生まれ。

来ないと思います。ずっとその事実は変わらへんのに、誰も呼んでないってことは。

○吉田副区長

マンホールは、御本人さんが平林につけてくれって。で、自分でその後、まさかあそこに、誰も通れへんような道じゃないですか。あそこに何でつけたんやろっていう。

○杉村委員

本人が言ってるんですか。

○杉村委員

へえ。

○風口委員

どの辺りやろ。見たいわ。

○杉村委員

川沿いの。川沿いずっと走ってったら分かります。マクドがある。北というか。

○風口委員

新北から、新北のマクドから。

○杉村委員

はいはい。そこから南に向かって。

○吉田副区長

ニュートラム平林駅のどっちかや。・・・東か。・・・北側と。

○風口委員

あんまり行かへんところやな、私は。境界線があった。

○杉村委員

すいません。全然違う話で。

○村藤部会長

こんな感じで楽しいんだったら、呼ぶこういう企画を、子どもたちが発想して、やってみて探してって。やっぱりそうしたら、こんなことあるよね、とか、こんなことしたいには、こんだけのたくさんの人が携わって、できるんだよってというのが分かれば、またちょっと違う切り口かもしれないですね。

○三木委員

大体そういう人ってつらい思いもしとるし、苦労話とか聞けるし、誰かに助けてもらったとかいう話も聞けるし。子どもたちの成長、遊ばせるのも成長って心の成長は大事やなと思いますけどね。

○村藤部会長

ほかにも何か、ほかの課題でも気になる点とか御意見ありましたら。

○藤原子育て支援・教育担当課長

6 ページのところの P R、クローズアップですね。ちょっと記載させていただいてる部分になるんですけど、6 ページの下のところなんですけども、「里親ってなあに」っていうところ、ございます。いわゆる病気や経済的困窮、いろんな事情で、家庭で暮らせない子どもがおりますと。1, 0 0 0 人ぐらいそういった子どもさんがいらっしゃるというところで、ぜひこういった里親というものについても、大阪市として増やしていこうというような動きが、大阪市全体であります。なので、こういった部分も広報などを含めて、やってるんですけど、なかなかちょっと増えない形になります。

大きく言えば、週末里親とか、週末だけ家庭の、子どもたちに家庭の雰囲気を味わわせてあげたいというか、そういった家庭の大事さということも含めて、里親さんのほうでやっていただけるように、こういった P R ということで、させていただいております。

○三木委員

里親の、何か基準みたいなのあるんですか。生活の基準というか、学歴とか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

いろんな面接も含めてするような形で。また登録する・しないも含めて、一度面接もありまして、どういった子どもさんとのマッチングも、合う・合わないもありますので。そういった子どもさんも含めて、いろんな面接も何回かやっていくような形で。

住之江区については、中央こども相談センターということで、また広報紙に問合せ先に記入させていただきたいなと思っています。

○三木委員

広報紙というのは、さざんかですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

はい。

○三木委員

さざんかもさっきおっしゃってたように、マンホールの話とか、住之江区出身の有名人のコーナーとか作ったらどうですか。そういう人お願いして。

○杉村委員

呼ぶのは難しいですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

以前はあれですね。小藪さんとか。

○杉村委員

そうそう。

○風口委員

コカド。

○藤原子育て支援・教育担当課長

コカドさんもやりましたね。

○杉村委員

お父さん通したらよかったんちゃう。

○風口委員

ほんまや。

○杉村委員

吉本通したら。

○風口委員

ほんま吉本通したらあれやな。

○杉村委員

闇営業って言われるかもしれん。

○三木委員

御本人じゃなくて、御本人のお父さんとかね。こんな子でしたとかこんなふうに育てましたとか。

○風口委員

それいいですね。

○杉村委員

それいいですよ。

○三木委員

友達とか。同級生。

○杉村委員

そんな書かんでええのについていうぐらい書く。

ほんまや、お父さんでいいですね。

○三木委員

お金かかるんやったらね・・・。

○村藤部会長

結構かかるんですね。やっぱボランティアみたいな感じでやりはるのかなと思ったら、そんなんじゃなくて。

○風口委員

闇営業の何か・・・。

○三木委員

特に吉本は厳しい。

○風口委員

厳しいですか。

○杉村委員

週末里親がもし、さざんかでやるんやったら、ササキリエさんが多分実践されてると思うんですよ。飛ぶようにしてもらった記憶も。めっちゃ分かりやすいホームページ

ジっていうか、面接があるんですよ。うちもやってみたいと思ってます。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ちょっといろんな政党さんとか、ちょっとその辺・・・。

○杉村委員

それは無理なんですね。そうなんですか。実際実演されてるし、今なかなか難しいかもしれないですけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そういう大阪市のページもありましたら、そういうところと連携して、やっていけたらありがたいと思います。

○三木委員

区長に、ただだから区長にしてもらおう・・・投資の話。

この前、ユマニチュード学会っていうのがあって、福岡市を挙げて、学会をバックアップしてたんですけども、100歳まで生きる方策を、100歳まで楽しく生きる、生き生き生きるというのをサポートするっていうのが目的で、その初動として、ユマニチュードを福岡市が採用して。

子どもたち、小学校にも出前授業みたいなのを市がしてるらしいですけど、やっぱり課題はいろいろあるけど、やっぱり高齢化で、認知症の人が増える町というのも、一つの大きな課題だと思うので、認知症の人たちが、生き生き生活、楽しく生活できるまちづくりというのをスローガンでやってるんですけども、住之江区、やっぱりこれは住之江区だけじゃない日本中の問題だと思うけども、早くからそういう認知症の人の勉強、人権を守るとか、どうサポートするとかいうのを子どものときから勉強されたりしたらどうかなと思うんですけどね。

やさしさ、子どもにやさしさを理解してもらおう。お互いさま、助け合って生きていくというのを、勉強してもらおういい機会だと思うんですけどね。

○村藤部会長

今、主任児童委員を今年からさせていただいてるんですけど、やっとそれをやり始めて、やっとこのこどもサポートネットの意味が分かって、こんぐらいいろんな会議に出ないと、この仕組みが分からないなというのは、すごく実感してるんですけど、もう少しちょっと伝わりやすさ、たくさんの支援があって、子どもたちをサポートしているので、子育てで悩むことがあれば、区役所に相談するんだよ。ググっても出ない・・・インスタでググる、大概の、私今一緒に働いてる人たち、子が今1歳4か月かな、お子さんいはって、子育てで困ったらどうしてんのって聞いたら、インスタで調べるか、ググって調べたり、ちょっとツイートして聞いちゃうって言うんです。

もう何か時代は、何か本見てたりとか、誰かに聞いたり、直接聞いたりする時代じゃなくて、まず自分が正しいと思う答えを探すって、検索してやってるんだなっていうのはちょっと実感はしているんですけど。

ただ、やっぱり子育てがうまくいかないとき、うまくいってる間は別にいいんですけども、つまりいたときとか、何かあったときに、こんなにバックアップの体制があるのに知らないっていうのは、ちょっともったいないなとは思うので。

さざんか以外で知る方法を、どこかちょっと検索できたらなとか、思います。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

Facebookとか、Xでも発信はしているものの、なかなか欲しい情報なんかがなかなか届かないということもあると思いますので、なので、いろんな切れ目のない支援を再度、例えば妊娠の母子健康手帳をもらいにきたときとかに、そういった相談先一覧とかですね、子育てケアプランっていうのをお渡ししたり、あと生まれた直後に保健師が訪問して、その際にもいろんな悩み事相談、あるいは3か月健診、あるいは1歳半健診、2歳、3歳半っていうような切れ目のない、節目節目で、いろんなサポートというか、相談できる体制はつくっていきたいと思っています。

実際今も、大阪市版ネウボラっていうたら、地域担当制というんですかね。いろん

な地域ごとに保健師がいるんで、相談体制の確保や、実際、子育てサロンとか来られる方だけではなくて、そこに来られるママさんも情報を知っていただくことによって、それがまた口コミで拡散するという部分も、本当に重要ななと思ってますので、SNSも含めて、我々の広報紙も含めて、引き続き継続して発信をしていきたいと思えます。

本当にサロンとかは、本当に助かっています。いろんなお母さんが来て、そこに来るお母さんに相談したりするママさんも、そのママのネットワークっていうのがすごいやっぱりありますし、その子ども子育てプラザのところでも毎月開催しますのです。お母さんはそういったところにも案内していただきたい。

本当に区役所も敷居が高いとよく言われるので、いかに下げるかというのを、みんなで知恵を絞りながらやってますので、そういった部分で、またぜひ。

○村藤部会長

全然届きにくい。こんなすてきなことをやってることを、いろんな会議に出て「あ、そうだったんだ」って分かるぐらい、やっぱり難しい。全体がこんなに仕上がってるのに、各部署で全然いろんなところがあるが故に、何かすごく理解しづらいけど、まあ区役所に来ればどうにかなるんだっていうところだけとは、最近は思うようになったんで。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○福田保健担当課長

すみません。保健担当課長の福田です。いつもありがとうございます。

先ほど三木先生がおっしゃっていたユマニチュードなんですけれども、1回目の全体会のときに少しお話しいただいて、在宅医療・介護連携事業の区民啓発事業のほうで、何かみなさまにやさしさを伝えるケアの技法、ユマニチュードのことについて区民の方に知っていただく啓発事業を開催予定です。

○三木委員

はい。聞いてます。

○村藤部会長

もうよろしいですか。

それでは、予定をしておりました時間となりましたので、終了したいと思います。

本日の会議内容につきましては、区政会議の全体会において、情報共有を図っていますが、今回の区政会議の全体会は、11月28日木曜日の開催を予定としています。決定次第、事務局からお知らせいたします。

また、事務局におかれては、本日の議事内容を整理していただき、全体会で報告できるよう、資料の取りまとめをお願いしています。

本日、予定していました議題は、以上でございますので、部会を終了いたします。議事進行に御協力、ありがとうございました。

最後に、事務局から何かありましたら、お願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございました。村藤部会長も、進行をありがとうございました。

いただいた皆さんからの御意見、貴重な御意見をしっかり受け止めまして、今後の区政に反映していけるように、取り組んでまいりたいと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議論を踏まえまして、部会長より指示がございました、全体会で報告する資料につきましては、また事務局と部会長に一任いただいてもよろしいでしょうか。また部会長と調整させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

それではこれで、住之江区の区政会議「育む部会」を閉会いたします。

次回、全体会につきましては、11月28日木曜日になっておりますので、御予定のほう、よろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。以上で終了といた

します。ありがとうございます。

以下余白